

さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期大学院会報第5号

役員便り

会長 澄川 〇〇

このところ、朝夕はすっかり涼しくなり秋の気配を感じるようになりました。

昨年の今頃は、全員文化祭に向け真剣に演目に取り組み、お互いの絆を感じていた事と思います。今年は校友会になり、全体の動きは少ないものの、協議会を含む行事は、目白押しです。グラウンドゴルフが終わり、赤い羽根募金活動、蔵の街とちぎへの日帰り旅行と続きます。来月は、協議会の文化祭があり、仲間の一部の方々の、芸能発表および作品展示があります。ぜひ、この仲間のためにエールを送ってほしいのです。何らかの形で全員が参加して場を盛り上げてほしいのです。どうか、皆さまのご協力をお願いいたします。

六十里越街道を御存じですか

6班 佐々木〇〇

山形県には吾妻連峰を源流にする最上川と六十里越街道の、水陸二つの古道がある。水の古道、最上川は芭蕉の句で知られているが、陸の古道の方はあまり知られていない。

私たちは、昨年、銀座の山形県アンテナショップで、陸の古道があることを知りました。その六十里越街道は山形県鶴岡市と山形市を結ぶ街道で、湯殿山参詣道・修験道が一部で重なり合う古道で、途中4箇所の峠越えがあります。

今回の出発地はクラゲで有名な水族館がある加茂港からです。小説、森敦「われ逝くものの如く」の舞台となった地です。ここから峠を越えた^{おおやま}大山までは、小説では若くして未亡人となった女性が、魚を詰めた石油缶を背負い、行商した道でもある。

大山から鶴岡市街を通り鶴岡市櫛引町松根までの平地道は炎天下の歩きとなりました。

松根からは山道になります。十王峠を越えて七五三掛^{しめかけ}に着くと、鉄門海上人の即身仏がある注連寺がある。小説、森敦「月山」の舞台となった寺ですが、明治の廃仏毀釈によって廃寺同然となり、昭和になって再建されたが、最近、七五三掛の集落が地すべりのため集団移転したために、現在は山中に、ただ一つ、ひっそりとたたずんでいます。次の大網集落には真如海上人の即身仏のある大日坊がある。ここから塞ノ神峠^{たむぎまた}を越えると、田麦俣集落に着く。ここまでは里山の歩きです。

田麦俣集落から細越峠^{ほそごえ}を越えて湯殿山参籠所へ至る道は、天気良ければ、森林浴を楽しみながらの楽しいハイキング道ですが、生憎、峠の手前で土砂降りの雨となりました。道は川に変わり、遠雷が聞こえる細越峠からの下りの急な道は滝となった。梵字川は激流と化し、H鋼を横に渡りただけの一本橋を恐る恐る渡りました。

私たちは湯殿山参籠所で1日滞留して天気の回復を待ちましたが、その甲斐もなく、出発してすぐに雨に降られ、街道の最高所となる大岫峠^{おおおくき}（1140m）では土砂降りになりました。私は増水した田代沢の徒渉の際に、転倒してずぶ濡れになったが、無事に次の宿泊地の志津温泉に辿り着くことができました。

志津温泉からの道は下りになり、途中の国道や町道では、また炎天下の歩きとなりました。終着地は山形県村山地方の西川町本道寺、正確にはそこから5km先にあるバスの発着地までで、歩いた距離は約80kmでした。

今回の旅は、平地道は炎天下、山道は土砂降りの雨でしたが、印象深い旅になりました。汗にまみれた私たちに、「冷たい水飲んでいくかい」と声を掛けてくれた人、「気をつけて行って」と、姿が見えなくなるまで見送ってくれた人、道の途中で出会った人たちのねぎらいや励ましの言葉で、私たちは最後まで歩き続ける気力と体力を保ち続けることができた気がします。



一隅を照らせば十分

6 班 清水 ○○



若い頃は、何かに秀でたい・人より抜きんでたいと願った。自分をより高めたいと願った。勝気も負けん気も、それなりにプラスになったと思う。しかし、これは些細なことだった。

少し歳を重ねると、本当に大切なのは自分ではなく、自分の世界だと感じるようになった。自分を高めるより、自分を取り巻く世界を良くすることが大切に思えてきた。しかし、どう行動すればよいのか思いつかなかった。

さらに歳月が過ぎると、ある種の諦念が生まれてきた。自分が世界に対して貢献できることなど、たかがしれている。どんなに大きな仕事をしたと思っても、自分ひとりでやったことなど、たかがしれている。

私は京都の町並みが好きだ。これまでに十回以上出かけ、市内を歩き回った。京都市内には「一隅を照らす」という言葉が短冊にされ、さまざまな所に掲示されていた。これは、天台宗の開祖、伝教大師・最澄の言葉である。この言葉は、いつの間にか、私の心に住み着いていた。

自分が生きる世界の片隅、それを照らすことが出来れば、それで十分だろう。自分には、その位しかできない。それだけ出来たら十分だろう。世界を良くすることだとか、世間から立派だと認められる事などは、もちろんそれなりに大切だ。しかし、自分の生涯にとって本当に大切なのは一隅を照らす事、これに尽きるだろう。今この瞬間を充実して生き、目の前の事柄に精一杯に取り組み、他人の評価や仕事の成果は、二の次で良いだろう。

深谷 花 散 策 寄 稿

6 班 工藤 ○○



梅雨の晴れ間となった7月15日花散策クラブの8人で深谷市の「グリーンパーク」に行きました。東京駅に似たレンガ造りの深谷駅は素晴らしかったです。「百合」の切り花が日本一という深谷です。深谷駅北口からコミュニティーバスでグリーンパークまでは一日100円でし。百合は1種類だけがほぼ満開でした。ほかの種類はまだちらほら咲きだした程度でした。満開の百合はピンク系の八重咲きで珍しかったです。よく整備された公園で、天井の高いあずま屋はさわやかな風の通る心地よい休息所でした。百合園はパティオという室内型プールの建物の前にあります。建物の中には「JAふかや」が出店している花屋さんがありました。鉢植えや切り花など、市価より安く売っていました。見事なカサブランカの切り花などとても安くて、炎天下の中を買って帰ることも出来なくて心残りでした。

深谷というと「煮ぼうとう」が名物です。夏の間は予約制というので、予約して「煮ぼうとう」を賞味してきました。暑い季節に暑いものをふうふういって食べるのもいいものです。とても太い麺で色々な野菜たっぷりの煮込みでおいしくいただきました。この日は33度という暑さでしたが、8名全員熱中症にもならず無事帰ってきました。

少しでもたのしく老いを生きる

— 智恵 工夫 努力 — 一橋大学講師 村瀬 幸浩

8月27日にシニア大学合同講座 岩槻校からは十数名が参加。本人は Sexsologist とされているとのこと。彼の講義は何時も満員であると言っていた。日本は世界一 Sexless だと。確かに話は興味深々で大いに共感を呼んでいたが、夫婦別々で聞く話で、一緒に聞いていたら必ず家で騒動になりかねない！ご注意！

連合会・協議会便り

学習講演会第2回として、9月4日(木)「日本一周の旅Ⅲ」で岩槻協議会先輩である千葉勝彦氏(岩槻2期会長)のスライド講演会が、本丸公民館視聴覚ホールで、午前10時から一時間半にわたり、校友会メンバー約100名を集めて行われました。(9期からは8名参加)千葉氏は昨年の大学授業の時の講師で、東京から東北までの旅のスライド講義を受講しました。今回は島根・広島等の中国地方の旅で、我々も一緒に旅に出た錯覚になり、旅の雰囲気飲みこまれました。

次回は12月4日(木)に同場所にて開催予定です。大勢の参加を希望いたします。(文責・澄川 ○○)